

## 初診患者の骨密度検査と骨粗鬆症診断に関する研究

研究分担者 宗圓 聰 そうえん整形外科骨粗しょう症・リウマチクリニック 院長

研究要旨：1年間に初診患者で骨密度検査を実施した例は91例であったが、検診による要精検者はそのうち8例（8.8%）であり、超音波による検査結果と全身用DXAによる結果には乖離がみられた。

### A. 研究目的

当院を初診し、骨密度検査を実施した患者について、検診による要精検を含む来院経緯を調査するとともに骨粗鬆症と診断した割合について検討した。

### B. 研究方法

1年間に来院した患者のうち、初診患者で全身用DXAで骨密度検査を実施した例のカルテを後ろ向きに調査した。

（倫理面への配慮）

カルテは医師のみで閲覧し、個人情報事務職員に集計させた。

### C. 研究結果

来院経緯は通常受診が最も多く76例、他院からの紹介受診が7例、検診による要精検例が8例であった。それらのうち、骨粗鬆症と診断した例はそれぞれ31例、1例、5例であった。検診は超音波によるもの7例、DXAによる大腿骨頸部骨密度によるものが1例であり、超音波により若年成人平均値の80%から71%の5例のうち骨粗鬆症は4例、68%の2例のうち骨粗鬆症は1例であった。

### D. 考察

検診結果から受診し、骨密度検査を受ける症例は決して多くはなく、超音波検査結果とDXAによる骨密度測定結果は必ずしも一致しないことが少なくないことが再確認できた。検診率の向上とより効率的に骨密度減少例や骨折リスクを有する例を拾い上げる方策が求められる。

### E. 結論

1年間に初診患者で骨密度検査を実施した例は91例であったが、検診による要精検者はそのうち8例（8.8%）であり、超音波による検査結果と全身用DXAによる結果には乖離がみられた。

### F. 健康危険情報

なし

### G. 研究発表

なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

#### 1. 特許取得

なし

#### 2. 実用新案登録

なし

#### 3. その他

なし